

高野長英記念館の草木

朝晩の冷え込み 紅葉の季節

朝晩 めっきりと冷え込み ついこの間までの酷暑が 遠い日のことのように感じられます 記念館周辺では 木々の葉が色づき 紅葉の季節を迎えています



シダレカツラ

(撮影 10月13日)

*記念館周辺からどこからともなくキンモクセイの心躍る香りが漂ってきます。一方で、記念館入口に近づくと、なつかしいカルメ焼きのほのかな甘い砂糖菓子のような何とも言えぬ香りも庭いっぱいに広がっています。シダレカツラの落ち葉を集めてみると、一層甘い香りを確かめることができます。



ヒガンバナ

(撮影 9月27日・10月7日)

*当記念館の北側に咲き誇るヒガンバナ。別名マンジュシャゲとも呼ばれています。言葉どおり、日本では秋の彼岸のころに花が開くヒガンバナ。赤い花を咲かせ、その後、秋の終わりには葉が伸び、翌年の初夏に枯れるという、珍しい特性を持っているようです。長英は、尚齒会の面々の協力を得ながら「勸農備荒二物考」を著し、庶民の窮乏を救うため「早ソバ」と「馬鈴薯(ジャガイモ)」の栽培を勧めました。ヒガンバナも、かつては救荒作物として鱗茎(球根)のデンプンを毒抜きして食べられていたようです。花言葉は「再会」「悲しい思い出」です。今月30日は長英の命日。大安寺の墓前で再会を祈ります。